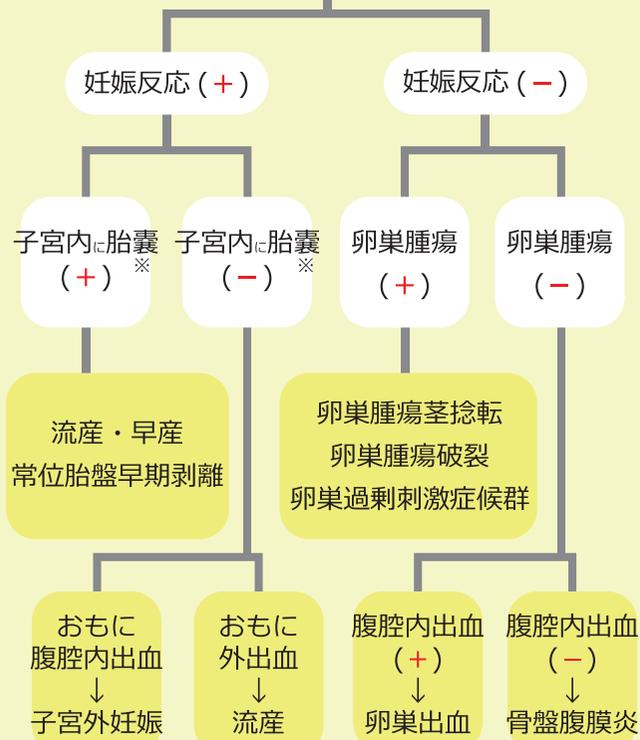


産婦人科における急性腹症の診断



※胎囊・・・胎児が入っている袋



この「診断手順表」は参考としてお使いください。当科では、高度な医療知識と他科との連携、判断力、豊富な経験をもとに、初期段階での正確で迅速な判断と適切な処置に努めています。

「尿妊娠反応」について

臨床検査科 外園宗徳

妊娠反応では、尿中に出現するヒト絨毛性性腺刺激ホルモン:hCG (human chorionic gonadotropin) を検出します。hCG は妊娠時に胎盤の絨毛組織から産生分泌される分子量 38,000 の糖蛋白ホルモンです。

hCG は妊娠 3 週頃から尿に出現し、妊娠 3 週後半には約 50 IU/L (検査可能)、妊娠 9 週～ 12 週で最大 (280,000 IU/L) となり以後漸減します。

【反応のしくみ】

hCG は受精卵から形成される絨毛という組織から分泌されます。受精卵が子宮に着床すると、そのまま子宮内膜を保って着床状態を維持するために、卵巣内にある黄体を刺激して黄体ホルモン (プロゲステロン) の分泌を促し、hCG が尿中に排出されるようになります。このホルモンを妊娠検査薬が検出することで妊娠の判定が出来るようになります。

【使い方】

基本的に市販の、どの妊娠検査薬も使い方は同じですが、必ず取り扱い説明書に従って検査してください。たいていの検査薬はスティック状になっており、その先に数秒間尿をかけるか、浸します。1～3分ほどで検査結果が判定でき、検査判定窓の色の変化で陰性か陽性の判断をします。(hCG が 25 IU/L や 50 IU/L のキットがあります。)

【陰性】



判定窓に赤紫色のラインが
あらわれない

【陽性】



判定窓に赤紫色のラインが
あらわれる

【注意点】

絨毛性疾患や胞状奇胎、分娩後、流産後などでは陽性を示すことがあります。また、異常妊娠や妊娠初期では、陰性を示すことがあります。よって最終的な妊娠の確定診断は、医師が触診や超音波検査などから総合的に行うものであり、妊娠検査薬の結果だけで自己判断せず、陽性反応の場合、速やかに産婦人科を受診してください。

くす通信

第 162 号
2014 年 8 月 1 日

国立病院機構熊本医療センター 発行

産婦人科より

- 産婦人科における急性腹症
- 産婦人科における急性腹症の診断

検査科より

- 「尿妊娠反応」について



「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

国立病院機構熊本医療センター

診療科

■ 総合医療センター	総合診療科、血液内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科
■ 消化器病センター	消化器内科、消化器外科
■ 心臓血管センター	循環器内科、心臓血管外科
■ 脳神経センター	脳神経外科、神経内科
■ 感覚器センター	眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科
■ 画像診断・治療センター	放射線科
■ 救命救急センター	救急科
■ 精神科	■ 小児科 ■ 外科 ■ 整形外科
■ リハビリテーション科	■ 泌尿器科 ■ 産婦人科
■ 歯科口腔外科	■ 形成外科 ■ 麻酔科 ■ 病理診断科

● 診療時間 8:30～17:00
 ● 受付時間 8:15～11:00
 ● 休診日 土・日曜日および祝日

〒860-0008 熊本市中央区二の丸 1-5
 TEL 096 (353) 6501 (代表)
 FAX 096 (325) 2519
 H P <http://www.nho-kumamoto.jp/>

急患は
いつでも
受け付けます



産婦人科

当院産婦人科は、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌をはじめとする婦人科悪性腫瘍を中心に、婦人科一般の症例を取り扱っています。手術や抗がん剤治療に積極的にクリティカルパスを取り入れ、良質で効率的な医療を提供し、患者さまが一日でも早く社会に復帰できるように心がけております。九州圏内でも有数の症例を受け入れ、術後の経過観察は地域への逆紹介を推進しており、遠方より来院された患者さまにも安心して治療を受けていただけるよう取り組んでいます。また、産婦人科救急症例にも対応しており、更に、精神科を有する総合病院の産婦人科として、精神科疾患合併の婦人科患者も積極的に受け入れております。



当院産婦人科は、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌をはじめとする婦人科悪性腫瘍を中心に、婦人科一般の症例を取り扱っています。手術や抗がん剤治療に積極的にクリティカルパスを取り入れ、良質で効率的な医療を提供し、患者さまが一日でも早く社会に復帰できるように心がけております。九州圏内でも有数の症例を受け入れ、術後の経過観察は地域への逆紹介を推進しており、遠方より来院された患者さまにも安心して治療を受けていただけるよう取り組んでいます。また、産婦人科救急症例にも対応しており、更に、精神科を有する総合病院の産婦人科として、精神科疾患合併の婦人科患者も積極的に受け入れております。

産婦人科における急性腹症



産婦人科医師
高木みか

急性腹症とは、「突然、急激に発症する激しい腹痛」を主訴とする腹部疾患のことで、診断が確定するまでの一時的疾患群の総称です。若い女性が消化器の症状はなく、下腹部痛を主訴



に受診されると、まず産婦人科へ紹介されます。急性腹症の多くは迅速で的確な診断と緊急手術の必要性を含めた緊急な治療が要求されます。

婦人科領域における急性腹症の代表的疾患は子宮外妊娠、卵巣出血、卵巣腫瘍の茎捻転や破裂、骨盤腹膜炎 (PID)、変性子宮筋腫、不妊治療の際の卵巣過剰刺激症候群 (OHSS)、子宮内膜症や月経困難症、排卵痛、さらに妊娠と関連するものに流産、常位胎盤早期剥離、子宮破裂などがあります。時にはショック状態で搬送される場合もあり、当科ではこの中で緊急手術を必要とした疾患の多い順に①卵巣腫瘍茎捻転、②子宮外妊娠、③卵巣腫瘍破裂、④骨盤腹膜炎、⑤卵巣出血となっております。

診断の流れ（裏面に診断手順を掲載）としては、まず詳細な問診聴取と同時に妊娠反応の有無を調べます。患者さまが月経とと思っていた出血が、妊娠関連であることは珍しくなく、妊娠の有無によっては検査や使用する薬剤に制限がかかります。診察は内診や経膈超音波断層法検査を行い、必要に応じて採血検査やCT・MRI等の画像検査を適宜行っていきます。以下に代表的疾患の説明を加えます。

まず、^{らんそう しゅよう けいねんてん}卵巣腫瘍茎捻転^{らんそう しゅよう けいねんてん}については、5cm 前後の卵巣腫瘍（特に皮様のう腫が多い）が何らかの誘因で捻転し発症します。突然の下腹部痛に加え高率に嘔気嘔吐の消化器症状を伴ったり、1～2 週間前から痛みが先行することもあります。腫瘍が捻転し壊死に陥り破裂して汎発性腹膜炎や敗血症に陥る可能性もあり、腹腔内所見によって付属器（卵管+卵巣）切除を行います。温存可能な場合には腫瘍のみを摘出します。

子宮外妊娠で特に卵管に妊娠し破裂した場合は、出血性ショックで搬送されることが多いのですが、近年は高感度 hCG（妊娠反応）測定、超音波検査や腹腔鏡手術の普及によって診断精度は格段に向上し、緊急治療の必要性は少なくなっています。治療は臨床症状や検査所見および妊育性（妊娠できる可能性）を考慮し、待機療法、薬物療法、手術療法が選択されます。早期に発見すれば、腹腔鏡下に卵管を切開するのみの保存的治療も可能です。

^{こつばんふくまくえん}骨盤腹膜炎は性感染症のクラミジア・淋菌と、膣・頸管の常在菌群の感染が原因となります。これらが子宮内膜から卵管・卵巣、さらには骨盤腹膜へと上行感染し、卵管卵巣膿瘍を形成することもあります。一般的には抗生剤治療によく反応しますが、不妊症や子宮外妊娠の原因になったり、右上腹部の疼痛が出現する肝臓周囲炎 (Fitz-Hugh-Curtis 症候群) を続発することがあります。

妊娠に関連した急性腹症の中には、急性虫垂炎や急性胆のう炎、腸閉塞や急性膵炎等の消化器系疾患を合併した症例、また尿路結石や急性腎盂腎炎等の泌尿器系の合併症も考慮されます。

当科では、高度な医療知識と他科との連携、判断力、豊富な経験をもとに、初期段階での正確で迅速な判断と適切な処置に努めています。